

2021安全・インテグリティ推進講習会

インテグリティへの取り組みのお願い

(公財)日本ラグビーフットボール協会
インテグリティ推進部門
アンチ・ドーピング委員会
コンプライアンス委員会



東海大野球部の“大麻汚染”は氷山の一角 SNS
などを通じて薬物を容易に入手、大学スポーツ界
の構造的な問題も (1/2ページ)

2020年のニュースより
(WEB記事のタイトル)

首都高速道路を149キロで走行 西武の佐
藤龍世被告に有罪判決

🕒 2020/10/20 05:00 神戸新聞NEXT

■ **中学柔道部傷害事件 1 週間 教師体罰、警察頼みに**

日本水連が瀬戸大也から事情聴取と発表 13日
に臨時常務理事会で報告へ

アルビレックス新潟の助っ人選手2人が書類送検され
る 飲酒後に車を運転か

小6女兒が「暴行罪」バレー監督と闘い続ける訳
母親が語る「恐怖の保護者会」と「娘のPTSD」

1. 日本ラグビー協会のインテグリティへの取り組み

2. インテグリティに関する状況

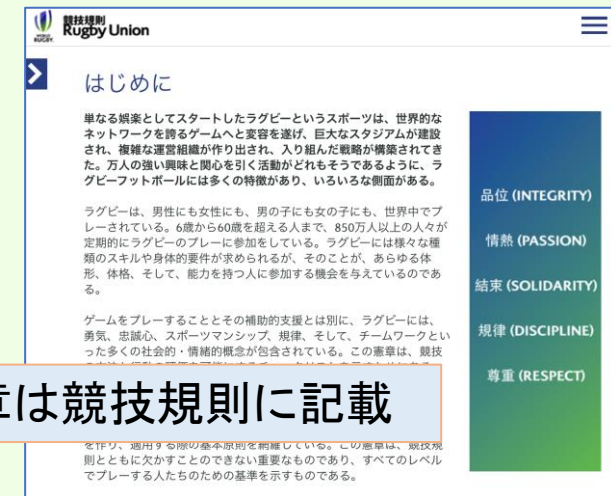
3. アンチ・ドーピングへの対応の紹介

4. 取り組みのお願い

「インテグリティ追求」について

ラグビーの価値を高める5つの要素が「**ラグビー憲章**」の中で述べられています。ひとつひとつがとても重要な意味を持っていますが、インテグリティは、すべての土台になる基本の姿勢・精神と言えます。

- **品位** **INTEGRITY**
- **情熱** **PASSION**
- **結束** **SOLIDARITY**
- **規律** **DISCIPLINE**
- **尊重** **RESPECT**



ラグビーに関わる人々(選手、指導者、観客、選手の家族、協会関係者など)に、ラグビーの場だけでなく日常生活や社会生活の場において、インテグリティという言葉が意味するところの「品位」「高潔さ」「健全性」を実現するための行動が求められます。

「インテグリティ相談窓口」の設置

インテグリティに反する行為に対応するための
「インテグリティ相談窓口」を設置（2018.4）

< 外部弁護士による対応 >



https://www.rugby-japan.jp/support_center



インテグリティ相談窓口は、日本ラグビーフットボール協会が策定している「倫理及び処分規程」に違反する行為に対処するために設置された自己浄化・自己修復の仕組みです。

【受付件数(2018-2020年度)】

2020年12月末時点

	スクール	中学	高校	大学	社会人	クラブ	その他	合計
2018	1	1	2	4			1	9
2019			2	1	2	1	1	7
2020		1	1				2	4

「インテグリティ追求」のホームページ紹介

日本ラグビー協会ホームページにバナー公開(2019年1月)

インテグリティ追求

インテグリティ追求の方針と学習資料を掲載

(通達、動画、書籍、資料など)



<https://www.rugby-japan.jp/jrfu/integrity>



どちらもダウンロード可能

コンプライアンスの学習資料



日本財団パラリンピックサポートセンター
『マンガで学ぶスポーツコンプライアンス
～アスリートが知っておくべき大切なコト～』

<https://www.parasapo.tokyo/topics/1860>

スポーツ団体のための
コンプライアンス・ハンドブック2018

平成29年度スポーツ庁スポーツ界コンプライアンス強化事業
「スポーツ団体のためのコンプライアンス・ハンドブック2018」

[https://rugby.dweblink.jp/images/コンプライアンス・ハンドブック%20\(2\).pdf](https://rugby.dweblink.jp/images/コンプライアンス・ハンドブック%20(2).pdf)

平成29年度スポーツ庁
スポーツ界のコンプライアンス強化事業
スポーツ団体におけるコンプライアンス教育

ラジオドラマで学ぶ「スポーツコンプライアンス」全12話
<https://youtube.com/playlist?list=PLo922F3SaObzl-7lQXE2LVa5JXxowQDcx>

World Rugby提供のe-Learning



Keep Rugby Onside
World Rugby's anti-corruption web site

Keep Rugby Onside ポスター

ログイン 登録

ホーム
本規定の対象者
賭け事に関する制限
八百長
その他の不正行為
インサイダー情報
不審なアプローチ
通報
制裁
予団

World Rugbyとしてコンプライアンス遵守のためのe-Learningを提供

「Keep Rugby Onside」(日本語訳で受講可)
<http://integrity.worldrugby.org/?language=EN&language=ja>

「Keep Rugby Clean」(英語のみ)
<http://keeprugbyclean.worldrugby.org/?language=en>

▶ 協賛者

参考書籍) グッドコーチング



著作者 スポーツ庁、日本スポーツ協会／制作協力
日本スポーツ法学会／法律監修
星野邦夫、土屋裕睦／執筆協力

出版社 PHP研究所

価格 ¥660

当書籍は、暴力・パワハラを起こさないために指導者として身につけるべき基本的な考え方や、様々なパワハラ事案への対応についてわかりやすく解説したスポーツ指導者のためのガイドブックです。

シリーズ第2弾として、ジュニア指導編も出版されています。

※書店での一般市販はしていません。

<https://www.php.co.jp/manual/detail.php?code=84479>

「スポーツ指導者のための倫理ガイドライン」 (日本スポーツ協会ホームページ)

スポーツ指導者のための倫理ガイドライン

スポーツの意義や価値が改めて問われている昨今、日本体育協会では、スポーツ指導者の望ましい考え方や行動についてガイドラインを策定いたしました。

本ガイドラインでは「スポーツの価値」「プレーヤーズファースト」「フェアプレー」の視点から、安全で、正しく、楽しいスポーツ活動をサポートするためのプレーヤーと指導者の望ましい関係づくりについて解説しています。

また、暴力やハラスメントなどの反倫理的行為が起きる背景や影響、指導者としての注意点なども網羅しています。スポーツ指導者はもちろんのこと、保護者や審判員、運営担当者など、スポーツに関わるすべての方にぜひ読んでいただき、本ガイドラインの趣旨を共有することで、スポーツ界から反倫理的行為を根絶するための一助となれば幸いです。



<内容>

- I. スポーツの意義と価値
- II. スポーツ指導者の役割
- III. スポーツ指導者の心得
- IV. 倫理的問題が起こらないために
- V. 資料編

全文ダウンロード



1. 日本ラグビー協会のインテグリティへの取り組み

2. インテグリティに関する状況

3. アンチ・ドーピングへの対応の紹介

4. 取り組みのお願い

インテグリティ追求に対して問題となる15の行動=コンプライアンス違反

① 違法薬物（大麻等違法薬物）

② ドーピング、パラ・ドーピング

③ 暴力行為（飲酒を伴う不行跡等）

④ ハラスメント（パワハラ、セクハラ、アルハラ、モラハラ等）

⑤ 違法賭博（違法カジノ等）

⑥ 反社会的勢力との関わり

⑦ 差別（人種差別、性差別等）

⑧ 試合結果の不正操作

⑨ SNSの不用意/不適切な利用

⑩ 不適切な経理処理

⑪ 私的な利益追求（横領等）

⑫ 交通違反（飲酒運転等）

⑬ 性犯罪

⑭ その他の各種法令違反

⑮ ラグビーの価値を下げるすべての行動



2019年に4人の逮捕者を出した「薬物問題」と、ほとんどのカテゴリーで発生していると考えられる「ハラスメント・体罰問題」への対応が必須となるが、「暴力行為(特に飲酒時)」「SNSの不適切な利用」、「不適切な経理処理」などにも注意が必要である。



2019年度日本ラグビー界における薬物問題と対応

2019年度の薬物問題は、日本ラグビーの健全性を根本から揺るがす大きな問題であり、継続的対応が必要となる。特に海外からの選手受け入れの改善と、若年層の薬物汚染問題への対応が求められる。

日付	逮捕容疑	逮捕者	判決	協会処分
2019/6/20	麻薬取締法違反(所持)	社会人 28歳 男性	懲役1年2カ月 執行猶予3年	無期出場停止
2019/6/27	麻薬取締法違反(所持)	社会人 36歳 男性	懲役2年 執行猶予3年	無期出場停止
2020/1/20	大麻取締法違反	大学生 21歳 男性	懲役6ヶ月 執行猶予3年	4年間出場停止
2020/3/5	麻薬取締法違反(使用)	社会人 29歳 男性	懲役1年6ヶ月 執行猶予3年	無期出場停止

・ 2019年6月に発生問題への対応

1. インテグリティ推進部を設置
2. トップリーグへの対応
 - トップリーグ各チームにインテグリティオフィサーを設置
 - 2019年11月にトップリーグインテグリティオフィサーセミナーを実施
3. HP「インテグリティ追求」に薬物問題を学ぶコンテンツを追加

・ 2020年3月に発生した問題に対し、トップリーグ全チーム(約700名)に対して薬物検査を実施

2020年12月に大学生3名が大麻取締法違反で逮捕

日本ラグビー界におけるパワハラ・体罰問題

日本のスポーツ界の指導において暴力・暴言がいまだに多く存在しているとの指摘があるが、ラグビーにおいても、以下のように各カテゴリーからパワハラ・体罰の事案が発生していることに加えて、協会への匿名電話で問題状況が指摘されており、抜本的な対応が求められる。

下記の状況に加え、国際人権NGO「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」(HRW)が7月20日に発表した「日本のスポーツ現場における子どもの虐待やハラスメントの調査結果」への対応も必要

✓各カテゴリーにおけるパワハラ問題

参考までに各カテゴリーで発生している事案を紹介

年度	カテゴリー	内容
2018	ラグビー スクール	コーチから「ラグビーを辞めろ」「ラグビーをする資格がない」などで約10分間、一方的に怒鳴り続けられた。
2020	中学	顧問より1か月のボール拾いを命じられたり『お前ボコボコにするぞ』と発言があった。
2019	高校	夏合宿で飲酒をしたコーチが部員に対して暴行（全治3週間）
2020	大学	コーチが特定の選手に対して飲酒の強要や暴行を行っていた。

1. 日本ラグビー協会のインテグリティへの取り組み

2. インテグリティに関する状況

3. アンチ・ドーピングへの対応

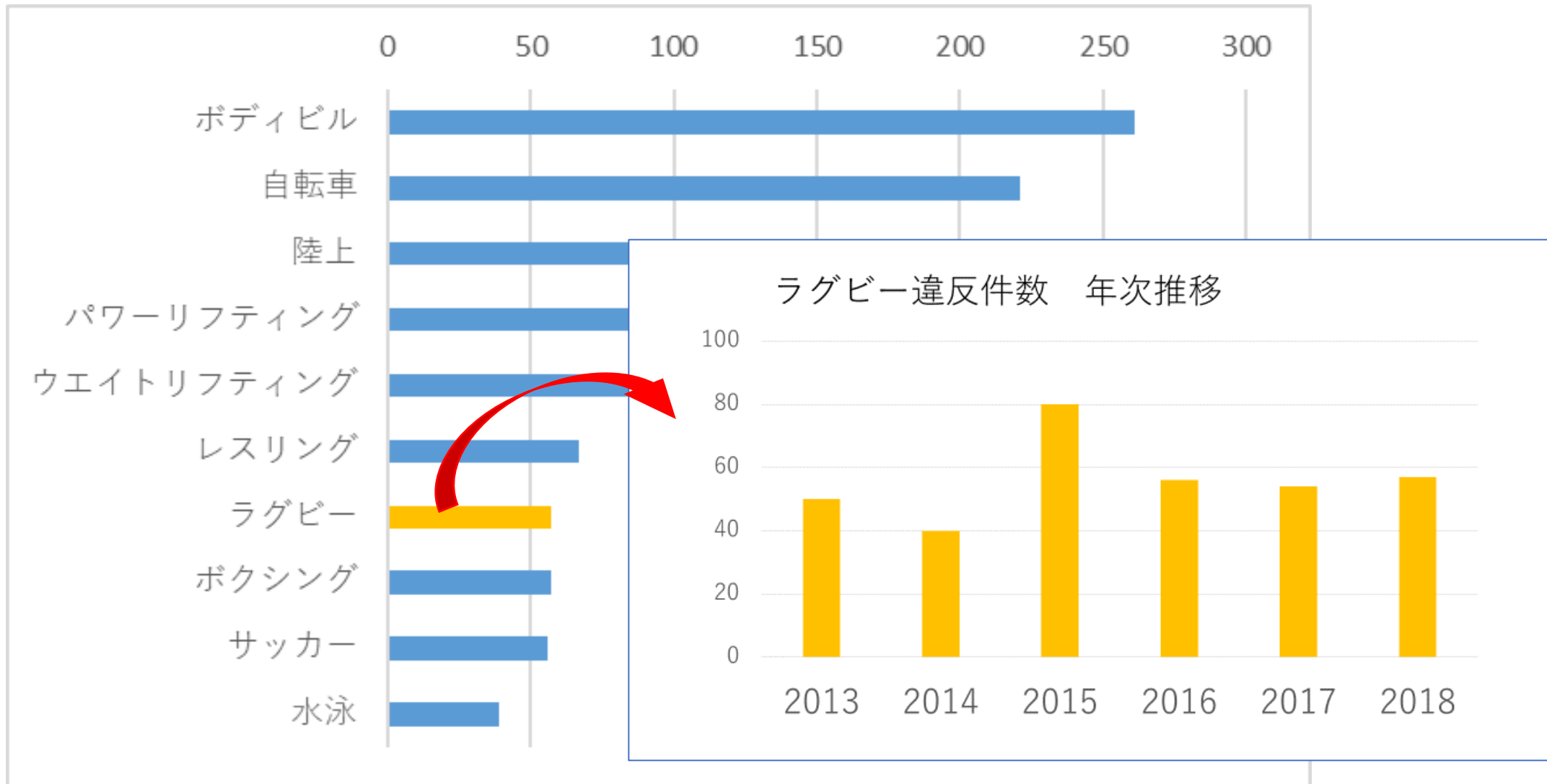
4. 取り組みのお願い

ラグビーの価値とインテグリティ

Integrity of Sportを脅かす要因



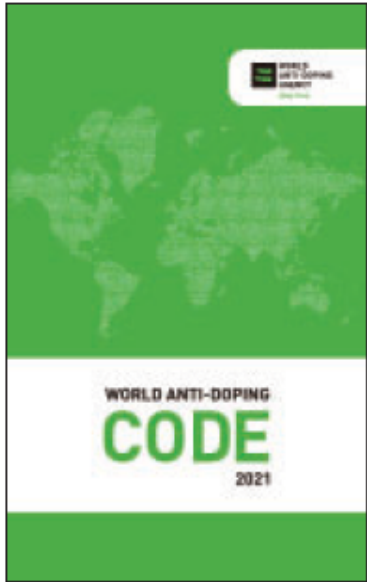
違反が多い競技(2018年の結果_WADA)



ドーピングとは？

禁止されている物質や方法によって競技能力を高め、自分だけが優位に立ち勝利を得ようとする、不誠実で利己的な行為

世界アンチ・ドーピング規程が変わりました



2021年1月1日から

「世界アンチ・ドーピング規程(CODE)」が変わります。

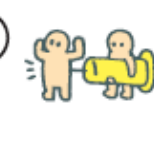
CODEは、ドーピングのないスポーツに参加するアスリートの権利と健康を守るために世界中のアスリートや競技団体などの意見を集約してつくられた、全世界・全スポーツ共通のルールです。

CODEでは、アンチ・ドーピングの基本原則や違反項目、アスリートや競技団体が果たすべき責務・行使できる権利などが定められています。

アンチ・ドーピング規則違反

アンチ・ドーピング規則違反項目が10 → 11へ

- ◆ ドーピングに関する情報を提供した「通報者」を守るため、新たに11番目の項が追加
- ◆ 第9項に「関与の企て」も追加

- | | | | |
|---|--|---|---|
| ①  摂取した尿や血液に禁止物質が存在すること | ②  禁止物質・禁止方法の使用または使用を企てること | ③  ドーピング検査を拒否または避けること | ④  居場所情報関連の義務を果たさないこと |
| ⑤  ドーピング・コントロールを妨害または妨害しようとする | ⑥  正当な理由なく禁止物質・禁止方法を持っていること | ⑦  禁止物質・禁止方法を不正に取引し、入手しようとする | ⑧  アスリートに対して禁止物質・禁止方法を使用または使用を企てること |
| ⑨  アンチ・ドーピング規則違反を手伝い、促し、共謀し、関与する、または関与を企てること | ⑩  アンチ・ドーピング規則違反に関与していた人とスポーツの場で関係を持つこと | ⑪  ドーピングに関する通報者を阻止したり、通報に対して報復※すること | ※「報復」とは通報する本人、その家族、友人の身体、精神、経済的利益を脅かす行為 |

アンチ・ドーピング教育啓発(2019年度)

- ①代表チームおよびトップリーグへの研修会を実施
- ②大学チーム研修会
(JADA講師養成講習会受講者が講師として実施)
- ③アウトリーチプログラム



アンチ・ドーピングにおけるPLAYERの役割

フィールド

社会

スポーツ界・社会の模範になる

ドーピング検査に対応する

日頃から注意する

ルールを知る

違反にならないことがゴールではなく、
スポーツを成立させる「フェア」を
アスリート自身が体現していくことで、
スポーツの価値を守っていくことにつながる

役割と責任

JADA研修スライドより引用



個人



A.医薬品

治療使用特例(TUE)が認められる(条件付き)

「**薬**」は医薬品医療機器法により

全ての成分が明確である

【参考:医薬品医療機器法】

B.漢方薬

「**生薬**」のため

全ての成分が明確ではない
(原材料の成分が明確ではない)

【参考:生薬総則】



C.サプリメント

「**食品**」のため

全ての成分が明確ではない

【参考:食品衛生法第四条】



サプリメントに関して

**サプリメントに関する状況を理解したうえで、
使用する場合はリスクを低減する行動をとる。
(リスクはゼロにはならない)**

- サプリメントによる違反が国内でも発生している。
- サプリメントの成分表示に禁止物質が記載されてなくても、禁止物質が含まれていないという保証はできない。
- WADA/JADAはサプリメントに禁止物質が混入されていないと保証することはない。
- 陽性反応が出たときは「競技力向上を意図したものではない」ことを証明するためにために体内侵入経路をアスリート自身が証明する必要がある。

ラグビー × KEEP RUGBY CLEAN



公財)日本アンチ・ドーピング機構(JADA)

[アスリート&競技団体の方へ](#)[医療関係の方へ](#)[教育関係の方へ](#)[一般の方へ](#)[企業関係の方へ](#)[アンチ・ドーピングとは](#)[ルールと規則違反](#)[事業と活動](#)[JADAについて](#)[FAIR PRIDE](#)

重要な案内

2020.12.22 [2021年アンチ・ドーピング規程と国際基準について](#)

2020.12.17 [WADA公開「COVID-19ワクチンの位置づけ」について](#)

2020.12.15 2021年禁止表国際基準（日本語版）を公開しました

TOPICS

[一覧へ >](#)

2021.01.08

お知らせ

➤ 緊急事態宣言に伴う当機構の対応について

2020.12.24

お知らせ

➤ WADAが2021年サイエンス研究グラントの募集情報を公開

2020.12.18

お知らせ

<https://www.playtruejapan.org/topics/2020/000491.html> 内アンチ・ドーピング機構に係る仲裁判断公開について

ABOUT FAIR PRIDE

The logo for FAIR PRIDE is a blue shield-like shape with a white border. Inside the shield, the words "FAIR" and "PRIDE" are written in white, stacked vertically. The background of the entire page is a light blue sky with white clouds.

アスリート&競技団体の方へ

医療関係の方へ

教育関係の方へ

一般の方へ

企業関係の方へ

アンチ・ドーピングとは

ルールと規則違反

事業と活動

JADAについて

FAIR PRIDE

トピックス

お知らせ



ニュース



2018年度



2017年度



2016年度



2015年度



2014年度



2013年度



2012年度



2011年度



2010年度



2009年度



重要な案内



お問い合わせ



日本ラグビーフットボール協会と日本アンチ・ドーピング機構によるクリーンなスポーツの環境を守り、フェアネスを推進するアスリートメッセージの制作・発信の協働

2019.02.22

ニュース



日本ラグビーフットボール協会と公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構は、スポーツの基盤となる「フェアネス（公平さ・公正さ）」の推進を目的とし、ロールモデルアスリートによるメッセージを収録した「FAIR PRIDE アスリートインタビュー」を協働して制作致しました。

▶ 動画を見る

▶ 共同リリース（日本ラグビーフットボール協会、日本アンチ・ドーピング機構）

JADA HP

1. 日本ラグビー協会のインテグリティへの取り組み
2. インテグリティに関する状況
3. アンチ・ドーピングへの対応の紹介
4. 取り組みのお願い

インテグリティ対応強化へのお願い

日本ラグビー協会に登録されている各チームの皆様は、インテグリティの重要性を理解し、以下の3点についての取り組みをお願いします。

	項目	目的/内容
1	インテグリティ/コンプライアンス/カバナンス についての学習	何が問題となっているのか、何が問題となるのかを 理解する
2	問題への適切な対応とラグビー協会への報告	問題の解決と実態把握/対策検討(軽度のものから)
3	JRFU 『インテグリティ相談窓口』 の利用	外部弁護士による適切な対応の実施

【連絡先】 JRFU インテグリティ推進部門 齋藤守弘 m.saito@rugby-japan.or.jp

必要なことは

- 問題を問題と感じる力
- 問題に対応する行動力

「インテグリティ追求」のための今後の取り組み

ラグビーの価値を高めるために「インテグリティの追求」に取り組むこととしていますが、2018年からの取り組みは、コンプライアンス遵守に関わる活動にとどまっています。今後は「フェアプレイ推進」「社会貢献」などにも積極的に取り組んでいくものとします。

